

# 「世界に誇れる『まち』」を 目指して



広島市消防局長 山下 聡

広島市は市内に6本の美しい川が流れることから「水の都」と呼ばれ、1589年に毛利輝元が太田川デルタの大きな三角州に広島城（別名「鯉城」）を築いた際、この三角州が大きな島に見えたことから「広島」と名付けられ、その後、毛利、福島、浅野氏の城下町として栄え、西国一の賑わいを見せました。

昭和20年（1945年）8月6日、広島は人類史上初めて原爆の惨禍を受け、一瞬にして廃虚と化しました。当時、75年間は草木も生えぬと言われていましたが、国内外から心温まる多くの支援を受け、復興を遂げてまいりました。本市では、この被爆体験を通じ「平和の尊さ」を体現する「まち」として、誰もが「生きることの素晴らしさ」を心と体で実感できる、そして、市民が「世界に誇れる『まち』」の実現を目指しています。

さて、当局では、現在、東日本大震災を踏まえた防災対策の推進、広域応援体制の強化、メディカルコントロール体制の充実、違反防火対象物の是正の強化等に積極的に取り組んでいるところです。

まず、防災対策では、東日本大震災で顕在化した様々な課題を「早期に実施する取組」と「国の防災基本計画の修正等を踏まえて実施する取組」とに整理した上で、地域防災計画の見直しを行い、災害対策本部体制の強化や情報の収集・伝達体制の充実、さらに、避難対策の充実などに取り組んでおり、今後も国の動向等を踏まえ、広島県等関係機関とも連携して現行の地震被害想定や地域防災計画の見直しを適宜、適切に行い防災対策を推進しています。

また、東日本大震災のような大規模災害等に対応するため、広島県及び県内消防本部において「緊急消防援助隊広島県隊」の運用について、迅速な派遣隊の選定のための「出動体制及び出動隊の事前編成」、現場活動における「県隊としての活動ルールの明確化」、職員の健康管理や車両の修理等を含めた「後方支援に必要な機能」、多様な機器を活用した「連絡体制の確立」等の検討課題を整理し、広島県隊の応援等実施計画及び受援計画の修正を行っているところです。

次に、救急救命士の処置範囲拡大、メディカルコントロール体制の充実強化が進められていますが、昨年3月から全ての救急車にカメラ等を設置し、傷病者や現場の動画及び心電図や血圧等の観察データを市内4病院に送る「救急画像伝送システム」の運用を開始し、メディカルコントロール体制の充実強化に取り組んでいます。

最後に、本年5月に福山市で発生したホテル火災では、消防法令違反をはじめ、様々な問題点が指摘されたことから、違反防火対象物に対する従来の査察指導に加え、悪質なものに対しては、より積極的な違反処理を行うとともに、区建築課と消防署が持っているそれぞれの違反情報を共有し、連携した是正指導が行えるシステムを作り、市民や来広される皆様が安心して利用できるまちづくりに取り組んでいます。

今後、市民の消防に寄せられる期待が一層高まっていく中、行政や関係機関が一体となり、近隣の消防本部や県と連携した消防・防災体制の充実を推進し、安全・安心なまちづくりの基盤を強固なものとすることが、市民の皆様の幸福と、広島に来られる方々への、なによりのもてなしに繋がると心に誓い、これからも職員が一丸となり、消防・防災行政に全力で傾注してまいります。